

第2回例会 代表質問から



会派清新
柴田 文男

市長の基本姿勢について

質問 2期連続の無投票当選。市民の信任の機会が得られなかった中で、今後の市政運営における留意すべき事柄について伺う。

答弁 これまでも出来る限り市民の声をお聞きし、市政へ反映させてきたが、さらにきめ細やかに相互理解を図るとともに、より謙虚な姿勢で市民の思いに応えていきたいと考えています。

質問 政策の優先順位について、市政執行方針では、病院の経営改善や行財政改革が優先され、子育て支援や教育問題など、置き去りにされている重要課題が多い。病院の経営改善は喫緊の課題だが、政策の優先順位をどう考え、取り組むのか伺う。

答弁 現状、地域医療の拠点である市立病院を守ることが喫緊の課

題であると判断しています。ご指摘のとおり、行財政改革についても優先すべき課題であり、市民サービスの安定的な提供のためにも避けて通れない課題です。しかしながら、子育て支援など目を向けるべき課題も多く、財政の健全化の進捗状況も見ながら、やるべきことをやっていきたいと考えます。

子育て支援の実施について

質問 子育て支援の実施については市長の念願でもあり、実施しなければならぬ時期に来ている。来年からの5か年計画で検討の運びとされるが、すぐにでも小学生までの通院費の無償化を実施すべきであり、財源問題を理由に拒むことなく、市長として決断すべき

ことなく、市長として決断すべきと考えるが、実施に向けた考えを伺う。

答弁 小学生の通院医療費の助成につきましても、財政的にも非常に大きな負担が生じるため、慎重な判断が必要と思われます。

しかしながら、その必要性は十分認識しており、総合的な判断の中で、この任期中に決断したいと思っています。

防災対策について

質問 避難勧告に関するガイドラインについて、市民周知の際には避難対象者が即座に分かるような表現を用いるべきと考える。

また、避難所開設のタイミングについては、避難準備前の段階で開設できるよう運用の改善を図るべきだが、見直しについての考えを伺う。

答弁 国では平成30年7月豪雨において、発災時のさまざまな防災情報が住民に十分活用されなかったことを踏まえ、防災情報を5段階の警戒レベルに分け、対象者ごとの避難のタイミングが分かるよう改めました。ご指摘の表現の問題につきましては、より具体的な表現を用いるなど、適切に周知を図り、運用を開始いたします。

また、避難所の開設のタイミングについても、石狩川滝川地区水害タイムラインにおいて、避難所開設のタイミングを明確化し、開設に遅れないよう見直していきます。

質問 避難所の停電時の電力供給確保のため、外部電源切替盤の設

置は重要である。江部乙地区の電力供給確保について伺う。

答弁 滝川スポーツセンター第一体育館と東滝川地区転作研修センターについては、今年度設置を予定しており、江部乙の農村環境改善センターについては次年度以降の改修時に設置したいと考えます。

学校教育について

質問 教職員の負担軽減策として、専門スタッフの配置や学校サポート体制の充実などを掲げられているが、肝心なのは教職員の増員であると考える。

少人数学級の拡大とともに重要な課題であるが、考えを伺う。

答弁 教職員の働き方改革の実現に向けた取り組みとしてやはり重要なのはマンパワーであります。少人数学級の拡大や教職員の加配については、国や北海道の事業を活用しながら充実に努めているものの、教員が本来担うべき業務の時間確保は十分ではありません。

質の高い教育を実現できる教職員定数の増員について、引き続き国や北海道に対して要望するなど努力していきたいと考えます。